

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連 (四国)	良く なっている	-	-	-	
	やや良く なっている	商店街（事務局 長）	来客数の動き	・今後の景気への期待と不安がきつ抗し始めており、消費マインドが高まりつつあると感じる。全体的に活況ということではないが、一部の業種では非常に好調となってきた。	
		スーパー（店 長）	販売量の動き	・ようやく消費税増税による影響が薄れ、販売量が上昇している。また、青果が相場高になってきており、景気には良い状況にある。	
		スーパー（財務 担当）	単価の動き	・生鮮食品が値上がりしている影響もあるが、少し良い物が売れている。	
		コンビニ（店 長）	来客数の動き	・来客数が増加している。中でも、建設業の客が力強い。	
		衣料品専門店 （経営者）	販売量の動き	・ゴールデンウィークも天候に恵まれ、4月以降の好調が続く、前半は好調であった。後半は多少停滞気味になったが、総じて堅調であった。	
		乗用車販売店 （役員）	販売量の動き	・新車受注は前年比横ばいで、登録台数は前年を下回っており、厳しい。四国の販売店も前年より悪く、今後に期待したい。	
		その他小売 [ショッピング センター]（支 配人）	来客数の動き	・直近では、高単価商品の動きが非常に良くなっている。	
		観光型旅館（経 営者）	お客様の様子	・5月の売上は昨年より若干良い程度。客数や売上の増加、客単価の上昇などが起きているわけではないが、株価上昇などによる景気回復の期待感がうかがえる。道後温泉周辺のイベントでの集客も増えており、景気は少し良くなっている。	
		タクシー運転手	来客数の動き	・ほぼ毎日、お遍路の仕事があるので、水揚げは良くなっている。	
		通信会社（支店 長）	販売量の動き	・高知県の販売量は伸びているが、伸び率は高くない。	
		観光遊園地（職 員）	お客様の様子	・特に外国人観光客の景気が良いと感じる。	
		住宅販売会社 （従業員）	来客数の動き	・前月に続き、イベントの来場者数が増え、商談に至る顧客も増えている。	
		変わらない	商店街（代表 者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークを中心に、かなりの人出でにぎわった。観光客も多く、特に飲食店では行列が出来ることもあった。しかしながら、売上は消費税増税前の水準に戻っていない。
			商店街（代表 者）	来客数の動き	・イベントの企画内容によって集客力が左右される。イベントのない月は、全く変化が見られない。
			一般小売店[生 花]（経営者）	販売量の動き	・「母の日」関連商品の注文数は昨年より増えたが、単価は下がった。
			一般小売店 [酒]（販売担 当）	お客様の様子	・酒専門店は価格競争に勝てず、厳しい状態にある。
			百貨店（営業担 当）	来客数の動き	・売上は前年より伸びているが、来客数の動きは前月に比べてあまり良くない。
			百貨店（販売促 進担当）	販売量の動き	・ゴールデンウィーク中の動員や「母の日」ギフトが堅調であったため今月前半は好調であったが、季節外れの台風による影響などで後半は振るわず、今月の売上は前年実績並みにとどまる見込みである。
			スーパー（企画 担当）	来客数の動き	・消費税増税直後の昨年5月と買上単価を比較しても参考にならない。来店客数は前年並みで推移しており、単価上昇分だけ売上は伸びている。
		コンビニ（店 長）	販売量の動き	・ゴールデンウィークは順調であったが、その後が悪く、最終的に対前年比マイナスとなる見通しである。	
		コンビニ（総 務）	来客数の動き	・ゴールデンウィークは天候に恵まれ、客数は前年より大幅に増加したものの、その後は普段どおりに戻った。	
		その他小売 [ショッピング センター]（副 支配人）	来客数の動き	・来客数が減少傾向にあり、必要なものだけを購入する姿勢が強く、若干の単価上昇で維持している状況が続いている。	
		旅行代理店（支 店長）	お客様の様子	・国内個人旅行需要は堅調に推移しているが、海外個人旅行需要、特にヨーロッパ方面の申込が相変わらず悪い。	

	タクシー運転手	お客様の様子	・売上も乗車数もあまり変わっていない。
	通信会社（企画）	お客様の様子	・先月に比べて、顧客の反応が若干鈍いように感じられるが、悪くなっているというほどでもない。
	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・来場者数は前年と比べるとまだ悪い。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・来客数、客単価共に低い状態が続いている。
やや悪くなっている	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・外商は前年比プラスになったが、店頭販売が大きく落ち込んだため、全体では前年比マイナスとなった。
	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・販売量の動きは悪く、来客数がとにかく少ない。かなり消費税増税の影響があるのではないかと。
	家電量販店（店員）	販売量の動き	・来客数も客単価も低下しており、販売量は顕著に減少している。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・4～5月は消費の冷え込みが厳しかったように思われる。車の売れ行きは、前年を上回らず、来店者数も減っている。
	乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・ガソリン価格が徐々に上昇しているからか、新車購入には慎重になっている。
	競艇場（職員）	販売量の動き	・5月の売上は、前月比33%増、3か月前比25%増、前年比11%増となっているが、今月はゴールデンウィーク、周年記念と大きなレースが開催され、かつ本場開催日が多くなっているためである。
悪くなっている	乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・4月以降、軽自動車の販売環境は最悪の状態にある。1～3月に先取りした分はあるが、ここまでの反動減は想定外であった。
	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・季節変動の要素が大きい。
企業動向関連 (四国)	良くなっている		
	やや良くなっている		
	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・全国的に発注量が増えている。特に外国人観光客が集まる地域を中心に景況感が良くなっている。
	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・主力の造船に加え、自動車関連のスポット受注が全体の受注増に貢献している。
	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・再生エネルギー、特に太陽光発電は継続して受注できている。今後はメンテナンスやバイオマス発電事業など受注は切れ目なく確保できると見込んでいる。
	電気機械器具製造業（経理）	受注量や販売量の動き	・主要取引先からの注文増に伴い、製品出荷高が微増している。
	輸送業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・良い方向性に進んでいると思う。
	金融業（副支店長）	取引先の様子	・防災関連事業先の受注は安定して推移している。また、利益を出している企業が増えてきている。
	公認会計士	取引先の様子	・今月の決算書・試算表等によると、前年比で若干売上が伸びている企業が相対的に増えている。景気は少しずつではあるが持ち直しつつある。
変わらない	木材木製品製造業	受注量や販売量の動き	・取引先の新設住宅着工戸数は予定より遅れ気味で推移しているが、今後の見通しは明るい話題が徐々に増えてきている。実感できるのは夏以降になる。
	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・5月は休みが多いため、売上が上昇しにくい。円安のため、採算も良くない。
	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・受注状況は比較的順調に推移している。
	建設会社（経理担当）	受注量や販売量の動き	・受注量も販売量も増えているが、利益が伴わないため、景気は変わらない。
	建設業（経営者）	競争相手の様子	・閑散期に入り、同業者でも仕事の受注状況に格差が出てきている。現状では、景況感是不変ならないと言える。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・これまで以上に営業に力を入れているが、受注は伸びていない。
	通信業（部長）	受注量や販売量の動き	・例年、年度当初は携帯電話の法人需要が高まる傾向にあるのだが、今年はあまり需要の高まりがない。
	不動産業（経営者）	取引先の様子	・同業他社のごく一部はかなり活況のようであるが、ほとんどは消費税増税以降、元の状態には戻っていない。
やや悪くなっている	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・既存顧客の物量が増えていない。加えて、円安による輸入貨物量も減少する一方である。

		輸送業（営業）	競争相手の様子	・景気低迷による経営悪化を受け、運輸業界では雇用条件を理由とした同業者間での転職が目立つ。消費税増税による実質的な所得低下を、雇用条件の良い企業への転職による所得増で補う傾向が顕著になってきている。雇用条件の悪い企業はドライバーなどの人材確保が難しくなる事業者も出てくるのではないかと。
	悪くなっている	-	-	-
雇用 関連 (四国)	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・これまではなかった小規模事業者からの派遣サービスの要請が発生している。
		人材派遣会社（営業）	雇用形態の様子	・求人数は業種職種問わず増加傾向にあるほか、就業条件も給与単価がわずかに上がっていることから、雇用形態、給与面を改善しないと人材が確保できない状況がうかがえる。
		求人情報誌（営業）	周辺企業の様子	・これまで企業が控えていた印刷物の修正・増刷や、看板の美装・作り替えなどへの投資が増加しており、広告業全般の景気がやや上向いている。ただ、単価は不景気時の低いままであり、大きく上向いてはいない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・依然、求人広告は好調に推移しており、人材の需要は高い。消費税増税以降低迷していた折込チラシ広告はわずかながら、3か月連続で前年を上回っており、顧客マインドが積極志向になってきている。
	変わらない	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・求人倍率は好調を維持している。しかし、非正規が約4割を占め、正社員ベースでは好転していない。
	民間職業紹介機関（所長）	周辺企業の様子	・来春の採用人数を今春よりも増やす予定の企業は少ない。多くの企業が前年並みとする見込みである。	
やや悪くなっている	人材派遣会社（営業担当）	採用者数の動き	・製造関係の求人が減少傾向にあるうえ、求職者は減少しており、派遣業は厳しい状況になりつつある。	
悪くなっている	-	-	-	-